「山形の強み」を

主催：山形産業人クラブ・日刊工業新聞社

自動車関連など企業誘致の動向
山形県のエネルギー政策

スズキハイテック社長
鈴木　喜代壽氏

2012年にトヨタ自動車東日本がスタートするなど、東北地域では自動車関連産業の集積が促進されています。しかしながら、こうした立地の動きは岩手、宮城、福島に集中している状況です。本県における2013年の工場立地件数は、前年を大きく上回り、回復傾向にあるように思えます。ただ、アジアをはじめとする新興国の台頭により、国内への企業立地は状況に変わりはありません。県内モノづくり企業の技術高度化による自動車関連産業への参入も欠かせない。今後の本県への立地促進としての取り組みはいかがでしょうか。また立地促進には道路など産業インフラの整備が重要であります。この点の取り組みについてはいかがでしょうか。

そして、モノづくり産業にとって安価で安定した電力を受けることが持続的な成長にもつながります。震災後にエネルギーの在り方は大きな課題でもあります。そこで県のエネルギー政策について教えていただきたいと思います。

立地補助など充実

吉村知事　自動車関連産業は裾野が広く、幅広い業種への波及効果が期待されます。東北地方では12年7月のトヨタ自動車東日本の設立や、一次サプライヤー企業の進出に伴い、自動車産業の集積が進んでおり、部品などの現地調達の動きが活発化しております。こうした動きを捉え、進出計画や調達の権限を有する中京圏の企業に対する訪問活動や、展示商談会の開催などを通じて、本県の基盤的技術の集積の厚さ、高い技術力、優れた人材などの強みをアピールし、企業誘致および取引拡大につなげてまいります。立地に際しての補助金制度においては、最大50億円の補助に加え、雪対策への補助やデポ関連施設を設置する場合の補助を設けるなど、自動車関連企業などのニーズに対応すべく内容の充実を図っています。

県内の産業インフラの整備状況では、栗子トンネルが貫通式を迎え、縦軸の日本海沿岸東北自動車道の秋田県境・新潟県境、東北中央自動車道の秋田県境が整備に向けて大きく前進。横軸の国道47号や347号も着実に整備が進んでいます。3月からは山形空港の羽田便が15年ぶりに朝夕2便に増便、名古屋便も3年半ぶりに復活しました。酒田港の国際定期コンテナ航路も週3便に増加するなど、産業インフラの整備・充実が進んでいます。今後もインフラ整備を着実に進めていきたいと思っています。

県のエネルギー政策についてですが、東日本大震災では本県も二度にわたり大規模な停電に見舞われたほか、県内への石油の供給が滞ったことによる長期間のガソリン不足など、かつて経験したことのない大混乱が生じました。私はエネルギー政策は経済対策でもあると捉えています。地域の発展、地域経済を活性化する上で、再生可能エネルギーの導入を拡大していくことは大変有効であります。従来は外で買っていたものを、木質バイオマスなどの地域資源を積極的に活用し、多くの県民の参加によって地域で生み出されたものを買うようにすることで地域にお金が回るようにし、経済的な活性化はもちろん、産業の振興や雇用の場の確保につなげていくことが重要になります。

息の長い取り組みになりますが、成長戦略としての視点をしっかり持って、エネルギー政策に取り組んでいきたいと考えています。

中小企業の振興

伊藤製作所社長
伊藤　明彦氏

日本の企業全数のうち中小企業は99%以上を占めていると言われています。日本が元気になるためには中小企業の持続的な成長が大きな課題になっています。

県におかれましては本年度の中小企業振興策として先ほども示されました「中小企業元気活力！プロジェクト」に乗り出しました。製造業付加価値額1兆円という目標を掲げる中で打ち出したものと思います。

プロジェクトでは中小企業相談窓口の強化や付加価値向上を目指す中小企業の取り組みを総合的にサポートする助成などを創設しています。

国による新ものづくり補助金の活用促進や今後のプロジェクトの展開について教えて下さい。

補助金など活用を

吉村知事　ご指摘の通り、県内企業の99%以上は中小企業です。中小企業は本県経済を活性化する原動力であり、中小企業が新たな取り組みに果敢に挑戦し、企業力を高めていくことが、本県産業の元気再生に結びつくと認識しています。そのために、県は本年度、山形県の基幹産業である製造業の付加価値額1兆円を目指して、これまでの取り組みに加えて、中小企業の潜在力・底力を最大限に発揮できるよう新たに総合的サポートを行う「中小企業元気活力！プロジェクト」をスタートさせました。

具体的には、製品開発のための入り口である市場調査や研究開発から、出口である販路開拓までの各段階を一貫して支援する「中小企業トータルサポート補助金」を創設。二つ目には県や国のものづくり補助金を受けて取り組む事業に対する制度資金の創設、三つ目には企業経営におけるさまざまな課題に対して専門家による指導を行う専門家派遣事業の拡大強化です。さらには、地域の最前線で企業ニーズを掘り起こし、支援メニューの情報提供、きめ細かな相談対応などを担う地域産業振興コーディネーターの各総合支庁への配置などを行っており、着実にプロジェクトに掲げる事業を展開しています。

また中小企業の総合的な相談窓口として、昨年9月に設置した「中小企業トータルサポート」については、中小企業庁の「よろず支援拠点事業」の活用により、相談支援機能の充実強化を行ったところで、これまで以上に関係機関が密接に連携を進めて、中小企業の皆さまが意欲的な事業活動を行えるよう支援してまいります。ぜひ活用していただければと思います。

モノづくり人材の育成

片桐製作所社長
片桐　鉄哉氏

本県の生産年齢人口は、県内4地域でいずれも減少傾向にあります。人口減少の波が押し寄せる中、本県産業の中核でもある製造業の人材育成は我々にとって重要な課題でもあります。こうした厳しい状況が予測される場として期待されます。そこで、大会に向けた準備は、どのように取り組んでいるのでしょうか。また、東北各県との連携はどのように進んでいますか。こうした取り組みを含めた本県における今後のモノづくり人材育成に向けた取り組みについての考えを聞かせて下さい。

技能五輪を契機に

吉村知事　2016年には本県を会場に技能五輪全国大会・全国アビリンピックが開かれます。その前に本県の就業者数についてご説明します。92年には18万7000人でしたが、2012年には11万5300人に減少。また高卒の新規就業者も93年には2926人でしたが、13年には1193人に減少しており、就業者の高齢化も進行しています。

このような中、本件におけるものづくり産業を持続的に発展させるためには、本県の強みである高い技術・技能を継承し、将来を担う若手技能者を育成していくことが必要であります。そうした中で、技能五輪全国大会を誘致いたしました。東北全体の発展にも貢献すると考えています。この大会を契機に、若手技能者の人材育成と技術・技能の継承のための仕組みづくりに、しっかり取り組んでいく必要があります。県としては私をトップとした協議会を13年3月に立ち上げ、中小企業団体中央会など企業団体も一緒になって、技能五輪全国大会・全国アビリンピックの開催に取り組んでいるところです。

まず、より多くの企業に参加いただくため、山形大会の参加選手数の目標を技能五輪120人、アビリンピック20人とし、本年度は選手の発掘を行う「推進員」などを2人増員。計6人としたところです。現在、企業・団体・学校などを訪問し、大会に参加する選手の発掘・育成に取り組んでいるところです。また、企業が若手技能者の育成に積極的に取り組んでいただけるよう、選手育成のための助成金などの支援や大会会場となる産業技術短期大学校などにおいて使用する設備を、順次整備していくなど、計画的に準備を進めています。東北各県との連携では、大会期間中に、併設事業として「東北6県・観光と物産展」や「東北広域商談会」なども予定しています。

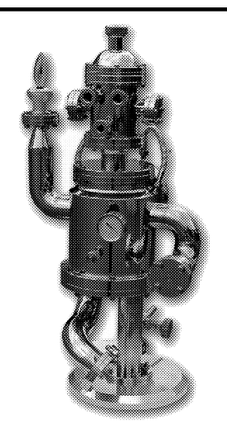
山形県のものづくりは、電気・機械・情報などの多様な産業が集積し、「ものづくり先進県山形」を自負しています。しかし、生産拠点の海外展開や生産年齢人口減少の進展など、ものづくりの強みが失われるおそれがあることから10年2月に「山形県次世代ものづくり人材育成プログラム」を策定し、産学官が連携して、ライフステージに応じた人材育成に取り組んでいるところです。今後とも、技能五輪を契機とした若手技能者の育成に加えて、企業在職者のスキルアップに積極的に取り組んでいきます。

JUST　めっき・表面処理　ダイヤモンド電着
QUALITY ASSURANCE JC REGISTERED ORGANIZATION No.F1269-ISO 14001　MS JAB CM002
ジャスト株式会社
代表取締役社長　岡崎　淳一
〒999-3103　山形県上山市金谷字下河原1360
TEL（023）673-5125㈹　FAX（023）673-5189
http://www.yamagata-just.co.jp

～販売に、確かな技術と情報を添えて～
多種製品取扱いと専門ならではの技術サポート
MOODY INTERNATIONAL CERTIFICATION　UKAS ENVIRONMENTAL MANAGEMENT 014
ISO9001 認証取得
ISO14001 認証取得
■制御機器専門商社
DKOYO 高洋電機株式会社
本　社／山形市長苗代55番地
http://www.dkoyo.co.jp

米沢オフィス・アルカディア
～新たな産業を創造する理想郷　研究開発をサポート～

山形大学有機エレクトロニクス イノベーションセンター
有機EL、有機トランジスタ、有機太陽電池、蓄電デバイスの実用化と製品の性能評価を行っています。
山形大学蓄電デバイス開発研究センター
リチウムイオン電池材料（セパレータ）の高速生産プロセスの技術開発に係るパイロットプラント（試作工場）です。大学と企業の共同研究による実証・評価に取り組んでいます。
助成制度を大幅に拡充
土地取得費の最大50%を助成！
（助成金には、条件がありますのでお問い合わせください）
アクセス
道路　東京から約300km　車で約3時間40分
鉄道　山形新幹線 東京から1時間56分（米沢駅から車で5分）
高速道路　東北中央自動車道 平成29年度開通予定（福島から20分）
<お気軽にお問い合わせください>
米沢市産業部 商工課 企業立地推進室
〒992-8501 山形県米沢市金池5丁目2番25号
Tel：0238-22-5111㈹　Fax：0238-24-4541
http://www.city.yonezawa.yamagata.jp/4482.htm
E-mail：syouko-ka@city.yonezawa.yamagata.jp
米沢オフィスアルカディア　検索



真空状況 10^{-8}（到達圧力）
magic＝【技術・魅力】
私たちの作ったロボットの中身は10のマイナス8乗の真空が保てるほど中は空っぽですが、このロボットには私たちのステンレス加工の技術がギッシリと詰まっています。
頭は一体物の素材からの削り出し。胴体は鍛造物からの切削加工。手足はパイプ加工。
各種フランジも自社製品です。精密溶接は真空技術には欠かせません。
こうした加工技術が私たちの売りものです。
それをささえるのが、サイトウマシンのコーポレートポリシーです。
斎藤マシン工業株式会社
〒994-0057　山形県天童市石鳥居二丁目2番64号
tel.023-655-4151㈹　fax.023-655-4347
http://www.m-saito.co.jp　info@m-saito.co.jp

次代の理想にチャレンジする、精密冷間鍛造。

工程解析から金型設計・製作、前処理工程、精密成形、
さらに精密二次加工までの全てを一貫した生産プロセスで対応。
精密冷間鍛造のパイオニア
株式会社 片桐製作所
URL:http://www.katagiri.co.jp/
本社・工場／〒999-3103　山形県上山市金谷字鼠谷地1453
TEL(023)679-2201　FAX(023)679-2413
超砥粒工具部／〒990-2338　山形県山形市蔵王松ヶ丘二丁目1-5
TEL(023)688-1817　FAX(023)688-1816